

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科		
科目名称	臨床医学Ⅰ						授業形態		講義	
科目コード	309702	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	
担当教員名	平田 徹、生地 暢								ICT活 用	
授業概要	本授業の目的は疾患の病態生理について学ぶ事である。 1年生で履修した「からだと疾病Ⅰ・Ⅱ」で修得した解剖学・生理学の知識をもとに各疾患の成り立ちについて学修していく。管理栄養士として学習すべき疾患について、病態生理、自覚症状、診断方法、治療法を系統的に学ぶことが大切であるが、この科目では、病態生理（どのような理由でその疾患がおきるのか）に重点をおいて学修する。臨床医学において、栄養学に基づいた食事療法は、全ての疾患の基本的な治療法であり、更に、個別の疾患ごとの栄養について深く学習する「臨床栄養学」の基礎になる科目でもある。 また、病気発症のメカニズムを理解しておく、「臨床医学Ⅱ」で学ぶ各疾患の症状や検査データの異常が理解しやすくなる。 医学は日々進歩するが、病院での実務経験のある教員による講義なので、最新の医学情報を学ぶことができる。									
関連する科目	本授業の履修前に受講することが望ましい科目：からだと疾病Ⅰ、からだと疾病Ⅱ 本授業の履修後に受講することが望ましい科目：臨床医学Ⅱ、臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ									
授業の進め方 と方法	各疾患の病態生理について講義をする。 基本的にはパワーポイントを使用して講義する。 必要に応じて、テキストの内容を補うための資料プリントを配布する。									
授業計画 【第1回】	1. 疾病の原因・診断 疾病の原因、症候、診断の概要について学ぶ。									
授業計画 【第2回】	2. 疾病の治療 一般的な疾病の診断法（生化学的検査、画像検査などの臨床検査）や治療法（薬物療法、手術療法、放射線療法）を学ぶ。									
授業計画 【第3回】	3. 栄養障害・肥満・代謝疾患の病態生理 栄養障害・肥満・代謝疾患(糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、痛風など)の病態生理を中心に学ぶ。									
授業計画 【第4回】	4. 消化器疾患（食道、胃、小腸、大腸）の病態生理 消化器疾患(食道、胃、小腸、大腸)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。									
授業計画 【第5回】	5. 消化器疾患（肝・胆・膵）の病態生理 消化器疾患(肝・胆・膵)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。									
授業計画 【第6回】	6. 循環器疾患の病態生理 循環器疾患(狭心症や心筋梗塞など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。									
授業計画 【第7回】	7. 腎・泌尿器疾患の病態生理 腎・泌尿器疾患の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。									
授業計画 【第8回】	8. 内分泌疾患の病態生理 内分泌疾患(甲状腺疾患など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。									
授業計画 【第9回】	9. 神経疾患の病態生理 神経疾患(脳血管障害や認知症など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。									
授業計画 【第10回】	10. 呼吸器疾患の病態生理 呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。									

授業計画 【第11回】	11. 運動器疾患の病態生理 運動器疾患(骨粗鬆症など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。
授業計画 【第12回】	12. 生殖器疾患の病態生理 生殖器疾患(子宮・前立腺疾患など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。
授業計画 【第13回】	13. 血液疾患の病態生理 血液疾患(貧血など)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。
授業計画 【第14回】	14. 免疫・アレルギー疾患の病態 免疫・アレルギー疾患(自己免疫疾患や食物アレルギーなど)の成り立ち、病態生理を中心に学ぶ。
授業計画 【第15回】	15. 感染症疾患の病態生理 感染症疾患を引き起こす病原微生物、感染経路など、感染症疾患の病態生理を中心に学ぶ。
授業の到達目標	病気が発症するのには必ず理由がある。 1年生時に学習した解剖学、生理学の知識をもとに、病気が発症するメカニズムを理解できるようになる。 病気発症メカニズムを理解しておくこと、臨床医学Ⅱで勉強する各疾患の症状や検査データの異常が理解しやすくなる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	〈予習〉1年生で学修した「からだと疾病Ⅰ、Ⅱ」のプリントや教科書を読んで予習をすること。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	〈復習〉授業で習った内容を、教科書を読んでしっかり理解すること。(最低1時間)
課題に対する フィードバック	
評価方法・基準	定期テスト(90点)、授業態度(10点)
テキスト	疾病の成り立ち:臨床医学 [第5版](Nブックス) 編著 田中明・加藤昌彦 建帛社
参考書	病気がみえるシリーズ(全11巻) 医療情報科学研究所 (図書室にあります。)
備考	